



## 現場に立っても見えぬもの

国際基督教大学高等学校 3年 渡邊 裕友

1週間のラオス研修。国際協力の現場を学びました。

青年海外協力隊の方の職場に足を運んだり、日本から寄付された市営バスに乗ったり、JICAの支援の下日本語を学ぶ学生たちと交流したり。

僕にとって最も印象的だったのは最後の夜のことです。古都ルアンパバーンの名物ナイトマーケット。布製品や絵、小物がたくさん並んでいました。

その中でも僕の目を引いたのはきれいに並べられた大量のTシャツ。値段は交渉次第だそうで「いくら？」と聞いてみたら300円程度。

昨年、大手アパレルメーカーが途上国での児童労働が問題となり、一部商品の販売中止に追い込まれる事態がありました\*。対象の商品は、本来、4700円程度で売られる予定であったそうです。

では、「後開発途上国」ラオスの夜市でたったの300円で売られるその大量のTシャツは、どんな人たちのもとの、どんな風に作られているのでしょうか。

それは僕には分かりません。もしかしたら、そのTシャツは、健全な労働環境で、十分な賃金を得た、大人の労働者が一生懸命作ったものかもしれません。でも、そのことに自信が持てなかったから、僕はそのTシャツを買う気にはなりません。

「愛の反対は無関心」マザーテレサの言葉です。

声にならない声や、目には見えない苦しさがこの世界には溢れています。

そうしたことにも関心を向けることが、自分にとっての次の一歩かもしれません。

僕の研修はまだまだ続きます。

\*参照 (【AFP】 <http://www.afpbb.com/articles/-/2304225?pid=2291600>)